

PRESS RELEASE

「東京ニットファッション工業組合」2022年度ブランディングプロジェクト
デジタル化の推進とサステナビリティにフォーカス

**「TOKYO KNIT OMO プロジェクト」を展開
プロジェクトの集大成「クロスオーバーエキシビジョン」開催!!**

2023年2月21日(火)～23日(木・祝) @渋谷 HIKARIE 8F「COURT & CUBE」

東京ニットファッション工業組合(東京都墨田区、理事長:南木健利、以下 TKF) ※1 では、2022年度は「TOKYO KNIT OMO プロジェクト」と題して TOKYO KNIT のブランディング事業を展開しております。

江戸東部の武士が、手編みで靴下や下着といったメリヤス製品を作るようになり、それが徐々に進化し、明治時代の殖産興業政策によってニット産業が発祥しました。歴史ある東京のものづくりを伝承・発展させるため TKF では様々な課題に取り組んできております。

今般、社会システムの DX 化が急進し、加えて、国や自治体、企業や団体、個人にいたるまで、環境に配慮したサステナビリティへの取り組みへの注目度が急速に高まっています。このような時流を鑑み、TKF として、本年度は OMO (Online Merges with Offline) =「オンラインとオフラインの融合」を実践することで、新規顧客(ビジネス&一般消費者)に対して TOKYO KNIT ブランドの価値訴求力を向上させるものと考えております。

(次頁以降にて本プロジェクトの概要をご紹介します。)

さらに、これらのプロジェクトの集大成として、来年の2月には、総合展示会「クロスオーバーエキシビジョン」を開催します。プロジェクトで創出された数々のコレクションの展示や有識者によるトークショーなどを行います。また、SNS を活用したオンライン配信をはじめ、会場を訪れたお客様には AR 技術などを用いたデジタル体験を提供するなど、OMO を意識しながら BtoB と BtoC がクロスオーバーする展示会を目指します。

本展示会の詳細は、2023年1月下旬を目途にニュースリリースにてご案内する予定です。

また、初日(2月21日(火)16時～予定)にはメディアの皆様向けのプレビューを開催いたしますので併せてご案内させていただきます。



TOKYO KNIT 総合展 2022「語り始めたファクトリー」
(2022年2月25日・26日@渋谷 HIKARIE 8F
COURT & CUBE) の模様

本事業は、東京都中小企業団体中央会が2022年度に実施する【中小企業新戦略支援事業(団体向け)に係る特別支援「デジタル技術活用による業界活性化プロジェクト」】 ※2としてTKFと株式会社博報堂によるコンソーシアムで取り組んでおります。

【本件に関するお問合せ先】

「TOKYO KNIT OMO プロジェクト」PR 事務局(株)SYNCA内) 担当:大柳、久保

TEL.03-4291-3344 MAIL. press@syncagr.com

【TOKYO KNIT OMO プロジェクト】主な展開概要

クオリティ コレクション

- 芳村貫太氏をディレクターとし、サステナビリティをテーマに参加認証企業の品質や技術を導き出し、同アイテム（フード付きパーカーもしくは長袖 T シャツ）で開発。カラーは生成りからグレートーンで表現。
- 各社の OEM/ODM 受注促進を図ることも狙う。
- クロスオーバーエキシビション（2023 年 2 月 21 日～23 日）で 2020 年に PITTI UOMO に出展した時の展示方式を踏襲して、1 点ずつ説明パネル付きで約 24 点をフェイスアウト展示する予定。



芳村貫太（クオリティコレクション ディレクター）

有限会社プロジェクトチノ 代表取締役

京都生まれ。京都工芸繊維大学工芸学部卒業後、生地メーカーを経て、(株)イッセイミヤケに入社。レディース、メンズのテキスタイルデザイナー、ブランドマネージャーを担当。1995 年有限会社プロジェクトチノを設立。(有)大森企画にてテンセルの 프로모ーションに参加。(株)良品計画にて無印良品のファブリックスデザイナーなどを担当し、現在、アパレルブランド、ライフスタイルブランドのブランド立ち上げ、企画、デザインコンサルティングを中心に活動。

★認証企業参加社数：27 社（22 年 12 月 5 日現在）



2020 年 1 月 PITTI UOMO での展示模様

リサイクループ プロジェクト

- 参加縫製各社の裁断クズ（生成り・白）を集結。反毛により紡績し糸を製作。
- テキスタイル・縫製・染色・附属含め計 11 社が参加。
- 話題の若手デザイナー TENDER PERSON とコラボし、この反毛を使って素材開発～コレクションを開発（6 コーディネイト程度）。
- クロスオーバーエキシビション（2023 年 2 月 21 日～23 日）にて AR（360 度撮影～拡張現実）でプレゼンテーション。その前に TOKYO FASHION AWRD 受賞者としてパリにてコレクション時期に（2023 年 1 月 17 日～22 日）SHOWROOM TOKYO に出展。3 月には東京のファッションウィークの時期に凱旋ファッションショーを実施予定。
- この反毛素材を活用して、認証企業の増見哲株式会社の淡路島の廃校再生 PJT オリジナル T シャツ・パーカー等開発予定。（2023 年 2 月 21 日～23 日開催のクロスオーバーエキシビション個別コーナーに出展予定）



ヤシゲユウト



ピアンカ

TENDER PERSON

ヤシゲユウトとピアンカが 2014 年に、文化服装学院在学中にスタートした男女デザイナーデュオブランド。2016-17 年秋冬シーズンから本格的にコレクションを発表している。2020 年 2 月に初の直営店をオープン。

2022 年 2 月に渋谷 HIKARIE で開催した TOKYO KNIT 総合展 2022 「語り始めたファクトリー TOKYO KNIT STORY」の展示に共鳴し、同プロジェクトに参画。TOKYO FASHION AWARD 2023 を受賞。

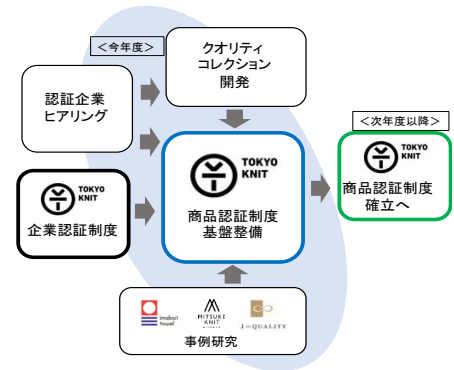
★認証企業参加社数：11 社（22 年 12 月 5 日現在）



TOKYO KNIT 総合展 2022 での
リサイクループプロジェクト展示模様

TOKYO KNIT ブランド商品認証制度※3の基盤整備

- TOKYO KNIT ブランドにふさわしい商品認証制度のあり方を検討する委員会（委員長：深澤隆夫）を立ち上げ、手を挙げた認証企業と共に商品認証制度の基盤整備を2022年度中に行い、次年度以降に制度を確立していく。
- クオリティ コレクション開発の過程も参考とする。



JFW デザイナーコラボ

- 一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構(JFW)の今城薫氏が推薦するデザイナーの橋本祐樹氏と今年度のコラボレーションが決定。
- 参画企業7社が参加し、クロスオーバーエキシビション（2023年2月21日～23日）にてコラボコレクションを発表。



橋本祐樹（JFW コラボデザイナー）
ファッションデザイナー

2019年春夏ブランドスタート。
京都造形芸術大学を卒業後、アントワープ王立アカデミーに進学。学士課程修了後、パリ、アントワープにて「KRIS VAN ASSCHE」「RAF SIMONS」「MAISON MARGIELA」のデザインアシスタントとして経験を積む。その後、ブランド立ち上げを見据え、ブランド創りの基礎を再度学ぶため、修士課程へ進学。修士課程期間中に中国のバッグメーカー「KITAYAMA STUDIO」から協業のオファーを受ける。
2018年7月、自身のブランド、YUKI HASHIMOTO を立ち上げ、2019 SPRING/SUMMER COLLECTION “BAD DAY CAMP” を発表。TOKYO FASHION AWARD 2020 を受賞。



今城薫
一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 ディレクター

1985年神奈川県生まれ。1991年～1997年、父親の仕事の関係でアメリカシカゴ州に移住。2007年、慶應義塾大学理工学部卒業、伊藤忠ファッションシステム株式会社入社。一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構のプロジェクトとして TOKYO FASHION AWARD、FASHION PRIZE OF TOKYO 等の運営を担当。2019年、一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 ディレクター就任、BoF 500 に選出。

認証企業の発信力強化への取り組み

- 自社オリジナルのファクトリーブランドを持つ企業、OEM/ODM 中心の企業、各々の強みを整理しながらプロダクト開発を行い、クロスオーバーエキシビション（2023年2月21日～23日）の個別コーナーで発表。

個別企業の対応力強化、eラーニング

- 「動画・SNS 等プレゼン能力向上」・「デザイナー対応力向上」・「DX による適量生産研究」・「SDGs チェック」・「IT 最先端情報研究」というテーマのもと、講師を招いてセミナーや交流会を開催。リアルとオンラインで同時開催。その内容を後日 eラーニングできるよう TKF 組合員限定でネット上でアーカイブ化。



TOKYO KNIT ブランディングに向けたデジタルを活用した多面的な情報発信

- 「公式ブランドサイト発信」・「公式 SNS・YouTube 発信」・「業界紙・SNS 広告」・「PR 活動（リリース発信等）」を TOKYO KNIT のブランディング活動として実施。
- 有識者応援団をインフルエンサーとして活用。
- 認証企業各社は自身での SNS 発信等のプロモーション活動をそれぞれ展開。

【TOKYO KNIT ブランド商品認証企業一覧（35 社）】※2022 年 12 月 5 日現在

※○◆■□は「TOKYO KNIT OMO プロジェクト」参画企業（22 年 12 月 5 日現在）

凡例：○クオリティ コレクション／◆リサイクループプロジェクト／■JFW デザイナーコラボ／□個別企業力強化

株式会社アシダニット（○◆）
株式会社アーテス（○■）
有限会社アートランド
伊東メリヤス工業株式会社（●□）
株式会社内田染工場（○◆■□）
大石メリヤス株式会社（○◆）
株式会社小倉メリヤス製造所
有限会社オフィスホドタ（○◆）
株式会社川合染工場（○）
株式会社川島メリヤス製造所（○）
株式会社川邊莫大小製造所（○）
キップス株式会社（○◆□）
有限会社紀南莫大小工場（○■□）
佐藤莫大小株式会社（○□）
株式会社サンローレル（○）
株式会社ズーム（○□）
杉田メリヤス工業株式会社
精巧株式会社
株式会社大染
株式会社谷繊維（○）
中橋莫大小株式会社（○◆□）
株式会社ナラハラニット（○□）
株式会社ニードル
株式会社沼尻テキスタイル研究所（○◆■□）
阪和株式会社（○◆□）
樋口繊維工業株式会社（○□）
株式会社ピーコンボ
フジサキテキスタイル株式会社（○■）
増見哲株式会社（○◆□）
株式会社マルチョウ（○）
丸柘染色株式会社
丸安毛糸株式会社（○）
丸和繊維工業株式会社（○◆■□）
百瀬繊維株式会社（○）
株式会社和興（○◆■□）

（以上、50 音順）

2022 年度プロジェクトの集大成「クロスオーバーエキシビジョン」開催概要

- 主旨：各プロジェクトを通じた成果を可視化し、BtoB から BtoC をクロスオーバーしながら次年度、次世代に繋いでいく展示会
- 日時：2023 年 2 月 21 日（火）～23 日（木・祝）
- 会場：渋谷 HIKARIE 8F「COURT & CUBE」
- 内容：「クオリティ コレクション」（約 24 点）、「リサイクループ プロジェクト」（約 15 点）、「JFW デザイナーコラボ」（約 20 点）、「個別企業プレゼンテーション」（約 80 点）などによるプロダクツ展示を中心に、TKF 組合の 2022 年度の成果をプレゼンテーション。最終日夕方にはコラボデザイナーや有識者などを招いてトークショーを開催。リアルのみならず展示会の模様やトークショーを SNS 配信するなどオンラインチャンネルも駆使。AR などのテクノロジーも活用するなど、デジタル化による新しい展示会の在り方にチャレンジします。
- 展示会総合テーマ：

語りはじめたファクトリー

未来に問いかけるものづくり

これからの社会が求める服づくりのために。
TOKYO KNIT は自分たちのファクトリーから
ものづくりを深く見つめ、未来に問いかけます。

着る人が長く愛せる服であるためには、
何を変えていかなければならないのか。
地球に優しい服づくりのために、
本当にやらなくてはならないことは何なのか。
ニット産業に関わる全ての人たちが幸せであるために、
私たちは何をはじめなければならないのか。

TOKYO KNIT の認証企業ファクトリーがはじめている新しい取り組み。
一つひとつはまだ小さなチャレンジかも知れませんが、
未来の服づくりを変えていくことができる。
ものづくりの現場であるファクトリーだから見えてくる、
できることが、きっとあるから。

未来を編んでいく。TOKYO KNIT



新谷 誠（プロデューサー兼クロスオーバーエキシビジョンディレクター）
JOGO 株式会社 代表取締役

ファッションをはじめとするブランディングの企画プロデュース会社 JOGO（株）の代表取締役企画ディレクター。

伊藤忠ファッションシステム（株）で企画プロデューサーとして活躍し 2016 年に独立し同社を設立。

主な仕事として、「Jクオリティ」のブランディングに関する業務（2016 年～2021 年）、東京都の「TOKYO FASHION AWARD」の受賞者選定からパリでのショールーム実施までの運営コーディネート業務（2017 年～2018 年）、「TOKYO KNIT」の商品開発のコンサル、コラボデザイナーの起用、展示会出展（2019 年度は PITTI UOMO 展と東京凱旋展、2020 年度～2022 年度は総合展示会）の企画構成、運営管理まで全体の企画コーディネイトを担当。

参考資料

◆ TOKYO KNIT について

東京にしか創れないニットの未来を世界に発信する、それが私たちのミッションです。

TOKYO KNIT は、東京の東部、墨田区本所界隈を中心に事業を展開しているニットファッション製造事業者が、次なる時代のファッション産業のあり方を目指す、新しいものづくりのプラットフォームです。

東京のニット産業の歴史は江戸時代に遡ります。鎖国状態にあった日本は、必要な物資の多くを国内生産に頼る必要があり、戦国時代の終焉とともに訪れた泰平のなかで、武士は刀を捨て、新たな仕事に従事することを迫られました。江戸東部に住んでいた武士は、手編みにより靴下や下着といったメリヤス製品を作るようになり、それが徐々に進化し、明治時代の殖産興業政策により、この地はニット産業発祥の地となったのです。

戦後、ファッション文化の中心となった東京には、多くのデザイナーがアトリエを構え、流通、小売業者も急増。さらに1970年代以降には、東京発のデザインが世界でも高く評価されるようになり、東京のニットメーカーはカジュアルからハイファッションまで、幅広いクリエイションに携わることになりました。東京のニット産業には、歴史と経験に基づく確かな技術力とともに、世界を刺激し続ける東京ファッション独自の創造力を支えるフレキシブルな思想が根付いているのです。

(<http://www.tokyoknit.jp/>)

(※ 1) 東京ニットファッション工業組合

ニット生地ならびに製品の製造業を営む中小企業の経営の改善発展、安定、合理化を図ることを目的とし、昭和24年に中小企業等協同組合法のもと、正式に法人格を持つ団体として発足。昭和61年に現在の名称である「東京ニットファッション工業組合」(TKF)と改称、現在約170社の組合員を擁する組織。(<http://www.tkf.or.jp/>)

(※ 2) 中小企業新戦略支援事業 (団体向け) に係る特別支援「デジタル技術活用による業界活性化プロジェクト」

東京都が支援する中小企業新戦略支援事業 (団体向け) は、各業界における中小企業組合等や中小企業グループが、団結して取り組む業界の活性化に向けた取り組みに対し、人的・財政的支援をすることで、業界等の発展を図るとともに、組合員企業やグループ傘下の企業経営力の向上を図っていく事業です。

また、特別支援「デジタル技術活用による業界活性化プロジェクト」は、前述の事業の一環として、ポストコロナを見据えて、デジタル技術等を活用した新たな手法による団体等の業界活性化の取組を選定し、実施に向けて包括的に支援する補助制度です。

(<https://www.tokyochuokai.or.jp/sienseido/jyoseijigyou/groupsenryaku.html>)

(※ 3) TOKYO KNIT ブランド認証制度

東京ニットファッション工業組合 (TKF) では、「技術のブランド化」をテーマに、組合員企業の中で、一定の認証基準を満たす企業を、有識者による認証審査委員会 (委員長: 水野誠一) の審査により『TOKYO KNIT』ブランドの「認証企業」として認証しています。現在、認証されているのは35社。認証企業の一覧については、ブランドサイト

(www.tokyoknit.jp/) をご参照ください。